

## 67 子宮腫瘍例のCEAに関する検討

東邦大学放射線科

戸張千年、黒沢 洋

同、産婦人科

室井克夫、野口昭二、渡辺 肇、大村 剛

われわれは、特に婦人科領域の子宮腫瘍の核医学的考察を加えている。今回は、子宮腫瘍（頸癌および体部癌）の血中CEA値の変化を術前および術後・放射線治療後について検討を加えたので報告する。

対象は当院産婦人科に入院した例の術前および術後並にⅢ・Ⅳ期例では放射線治療後に血中CEA値を測定した。病期分類は臨床的所見によった。血中CEAを測定した。血中CEA値の測定は通常用いられているCEA値測定キット（ダイナボット社）により行なった。

結果は、子宮腫瘍全体で術前では $\frac{1}{40}$ の23%に、また術後では $\frac{2}{3}$ の15%に認められその値は減少した。内訳は、頸部癌の病理組織・腺癌例の6例の術前では3例、50%に認められ、術後は本3例共に正常値へ復した。扁平上皮癌例の31例の術前では8例、26%に認められ、術後の9例では2例の22%に認められ、術後を正常値に復した例は1例のみであった。また頸癌（扁平上皮癌例）の病期別分類では、術前に高値を認められた症例は、st.0で $\frac{1}{3}$ 、st.Ⅰ(a+b)で $\frac{1}{3}$ 、st.Ⅱ(a+b)で $\frac{1}{8}$ （13%）、st.Ⅲ(a+b)で $\frac{5}{12}$ （42%）およびst.Ⅳで $\frac{2}{5}$ （40%）を示していた。

一般にCEAは大腸癌の病理組織腺癌に比較的特異性が有ると報告されている。今回のわれわれの過去2ヶ年の症例では、術前において頸部、体部癌を含めて23%を示し、頸部で30%であり、諸家の報告とほぼ一致していた。

加えて今回の検討で頸部腺癌のCEA値が比較的高値を示し、術後全例正常に復していることは興味深かった。

68 悪性腫瘍群および非悪性腫瘍群における血清 $\beta 2$ -microglobulin値と血清CEA値の比較：特に両者の相関について

弘前大学医学部第1内科

鈴木明夫、石沢 誠、小松良彦

三沢市立三沢病院

坂田 優

同、RI検査部

昆 武雄、伊藤 享、出戸常春

五所川原西北中央病院第2内科

富田重照

血清 $\beta 2$ -microglobulin（以下、 $\beta 2$ -MG）値と血清CEA値をRIA法により、82例につき測定した。そのうち41例は悪性腫瘍群、残り41例が非悪性腫瘍群であった。これら2群における $\beta 2$ -MG値、CEA値につき検討を加えた。

$\beta 2$ -MG値に関しては以下の通りであった。全体としては、 $n=82$ 、 $\text{mean}=2.52 \text{ mg/l}$ 、 $\text{S.D.}=1.70$ 。悪性腫瘍群では、 $n=41$ 、 $\text{mean}=2.86$ 、 $\text{S.D.}=2.06$ 、非悪性腫瘍群では、 $n=41$ 、 $\text{mean}=2.18$ 、 $\text{S.D.}=1.18$ であった。また、この2群間の平均値には有意差がなかった。

CEA値に関しては、全体で、 $n=82$ 、 $\text{mean}=3.88 \text{ ng/ml}$ 、 $\text{S.D.}=6.47$ 。悪性腫瘍群では、 $n=41$ 、 $\text{mean}=6.79$ 、 $\text{S.D.}=8.18$ 、非悪性腫瘍群では、 $n=41$ 、 $\text{mean}=0.978$ 、 $\text{S.D.}=0.773$ であり、両群の平均値には有意差があった（ $P<0.001$ ）。

また、 $\beta 2$ -MG値とCEA値についての1次相関をみると、全体としては、 $r=0.325$ （ $P<0.005$ ）、悪性腫瘍群では、 $r=0.325$ （ $P<0.05$ ）、非悪性腫瘍群では、 $r=-0.273$ （ $0.05<P<0.01$ ）であった。全体および悪性腫瘍群で相関があった。

最近、血清 $\beta 2$ -MG値が、多発性骨髄腫以外の悪性腫瘍においても上昇するとの報告がある。しかし、われわれのデータでは有意差がなかった。また、CEA値については、他の多くの報告と同様に、悪性腫瘍群において有意の上昇があった（ $P<0.001$ ）。 $\beta 2$ -MG値とCEA値との間には、非悪性腫瘍群以外では相関があった。

今後、 $\beta 2$ -MG値の経時的変化と腫瘍の進展度との関連を検討すると共に、胸水・腹水中の $\beta 2$ -MG値を測定することにより、悪性腫瘍における $\beta 2$ -MGの由来にも言及していきたいと思う。